平成30年度　第3回　第6期武蔵野市廃棄物に関する市民会議要録

【日　　時】　平成30年11月29日（木）　　午後7時00分～8時42分
【場　　所】　市役所西棟8階　812会議室
【出席委員】　山谷修作、田口誠、荻野芳明、金井憲一郎、加藤愼次郎、木村文、
（敬 称 略）　沢村哲志、新垣俊彦、吉安晶子、茂木勉、能勢方子
【事 務 局】　ごみ総合対策課長　ほか
【欠　　席】　西上原節、花俣延博、松井理依子
【傍　　聴】　なし
【配付資料】
・【資料１】武蔵野市ごみ排出量の将来推計結果（現状のまま推移した場合）
・【資料２】第４章ごみ処理基本計画の主な施策について【新旧対照表】（素案）

1　開会

【委 員 長】定刻になりましたので、市民会議を開催する。

2　議題

（1）本市のごみ排出量の将来推計

【事 務 局】配付資料１『武蔵野市ごみ排出量の将来推計結果（現状のまま推移した場合）』を説明。

【委 員 長】何か意見はあるか。

【委　　員】事務局での生産緑地の解除の話については、2022年問題として生産緑地所有者ヒアリングを行っており、所有継続との回答が多いことから、生産緑地が即宅地化へ流れることなく、想定量は少なくなる可能性がある。

【委　　員】生産緑地は現状、減少傾向にあるが、今の数値で固定していくということか。

【委　　員】2022年問題として生産緑地解除の際の全買取りは市の財政的に厳しい。また法改定により主たる農業者が民間でも生産緑地を守れるようになっている。アンケート調査結果からも、手放す農業者は少ないと考えられるので、生産緑地の自然減は考えられるが、一度に大量減少することは起こらないと考える。

【委　　員】表４について、家庭ごみは人口の増減に比例するものだと感覚的に思うのだが、ごみ総量について人口５％増と、家庭ごみの増加率が合わないことについて、推計結果への違和感を事務局は感じないか。

【事 務 局】推計結果では平成25年度から40年度にかけての一人当たりのごみ量は、675ｇから 606ｇへと減少を見込んでおり、人口の増はあるにせよ、一人当りのごみ量の減少を踏まえると、現状に基づいた値として特に問題はないと考え

る。懸念点としては、本年度がトレンドの変化した時期であり、推計値の見極め時期的には難しいタイミングだったのではないかと感じている。

【委 員 長】人口が微増加傾向ということだが、生産緑地の法改定等の 2022 年問題もあり、確かに推計値を算出するには難しいタイミングであると思う。

【委　　員】人口増加の一因としてこれまで企業の社宅があった場所での大規模マンションや一戸建の土地開発も影響しているのではないかと考える。

【委 員 長】次の議題に移る。資料の説明をお願いしたい。

（２）計画の主な施策について

【事 務 局】配布資料２『第４章ごみ処理基本計画の主な施策について【新旧対照表】(素案)』を説明。

【委 員 長】何か意見はあるか。

【委　　員】災害廃棄物処理計画はいつ頃確認できるのか。

【事 務 局】詳細な記載ではないが次回会議で示す予定である。

【委　　員】項目１～４の関係性が見えにくいと感じる。項目１と項目３はそれぞれ関連性が高いと感じる項目なので、離れて記載されていると違和感がある。

【事 務 局】項目１の“連携の推進”は現計画の基本方針として非常にウエイトを置いて挙げている部分なので、現計画と同様、強調すべき重要項目として先頭の項目１として記載している。

【委　　員】項目３を項目１の前に記載しても差し支えないのではないか。

【事 務 局】考え方の一つとしてありだと思う。

【委 員 長】項目１で市民団体との連携の重視は歴史的背景があり、重要視しているということだと思う。ただし、記載の表現の仕方に関して、具体的事業案２つ目の“キャンペーン”という表現は、重要視している活動なのに読み手に軽い印象を与えかねないので表現を検討してほしい。

【委　　員】項目３が項目２の後ろに来ることにやはり違和感がある。ここについて委員の方々の意見をもらいたい。

【委 員 長】普及啓発は重要な要素だが、啓発活動によるごみの減少量を定量的に把握することは甚だ難しい。減少量の把握のためにも例えば有料化等の具体的施策が必要。私はこの項目の組み立てでも問題ないと考える。

【副委員長】あくまで項目２が取り組みの中核になる。この項目の流れはこれでよいと思う。ただし、項目１は項目２に影響する大きな視点で行政と市民、民間が共同して行う中身がわかる書き方に変更した方がより良いと感じる。

【委 員 長】パートナーシップの基本姿勢理念等が見えるような文章に調整してほしい。

【事 務 局】了解した。

【副委員長】項目４（６）について二重の収集体制について触れているということは、集団回収についてはネガティブであることが書き方から見て取れるがどうお考えか。

【事 務 局】集団回収に大きなコストを要していることは認識してもらいたい。本来なら

集団回収というものは行政回収の代替になる得る収集方法なのだが、武蔵野市の現状として、集団回収のエリアが虫食い状に存在しているため、全体的な代替手法とならないのが非常に問題であり、余計なコストと手間、二重収集等の問題が起こっている。現状の集団回収の仕組みを工夫し見直しが必要と考えている。廃止はしないがあり方については今後検討が必要だと思う。ここについては書きぶりの修正を行う。

【委 員 長】回収の選択肢が沢山あることは市民にとっては利便性の面で良いが、コストはかかる。項目４（３）等で市民に分別の意識をお願いしている一面がよく表れている文章だと思う。また、サーマルリサイクルについて研究課題だと示している点で、サーマルリサイクルの導入検討により市民のリサイクル意識へ影響を与えないか心配。

【委　　員】現在の焼却施設はプラスチックの焼却を想定した炉ではないので、プラスチック類を全て焼却することは無理があると思う。

【委　　員】資源ごみの隔週化について武蔵野ごみニュースを受けて市民からの苦情はきているのか。また、ケーブルテレビでの啓発はしているか。

【事 務 局】武蔵野ごみニュースに対しての反響は非常に大きいが、クレーム自体は非常に少ない。クレームとして受けたものは、隔週への変更に対する不満と、マンションの管理人の方からの２件。このうち、管理人の方へは、基本としてごみ出しは当日の朝に行うよう呼びかけを行うよう説得している。市報、ケーブルテレビやラジオでの普及啓発は今後行っていこうと考える。

【委　　員】市民の周知の現状について、市民の中には、現在のクリーンセンターの発電能力が緊急時に一般向けに供給できるほどの発電量を持っていると勘違いしている者もいる。また、戸別収集についても、現状の戸別収集に慣れている市民が集団回収について理解しきれていないと感じる。

【事 務 局】集団回収については、来年度以降に整理を行っていきたいと考えている。

【委　　員】武蔵野ごみニュースに関して、私の周りでは今回の変更に賛同する者が多かった。隔週の方がよかったという人もいて、市民によって考え方は様々だと感じた。

【事 務 局】ごみを出す人の行動パターンによって月２回と隔週の利便性が変わってくる。

【委　　員】各地域の具体的内容はいつ出すのか。

【事 務 局】12 月 15 日の市報で“HP 上に公開しています”と記載を行う。また、2 月 15 日号の一面にも出し、３月のごみカレンダー、ごみニュースでも行う。

【委　　員】説明会はいつ行うのか。

【事 務 局】２月後半か３月を予定している。

【委　　員】団地等では入退去の繰り返しが多いので、そういった人たちへのごみ出しの周知は非常に大変。その点を心配している。

【委　　員】エコプラザの市民へのオープンはいつ頃か。

【委　　員】平成 32 年度オープンを公表済み。管理運営方針を来年 2 月に議会に示す予定である。

【委 員 長】次にその他説明があればお願いしたい。

（３）その他

【事 務 局】次回会議日程は１月中旬頃を予定している。今回の意見を踏まえた修正案の結果と数値目標についてを議題とする予定。

【委 員 長】他になければこれにて閉会とする。

４．閉会